

第 4 回審議会における主な意見の概要とその後提出された意見

資料 5 「環境に関する課題（取組みに方向）等について（案）」に関する意見

1 重点的に取組む課題

環境施策の目玉、重点課題として、エネルギー政策を展開すべき。非常に先駆的な温暖化政策を基礎的自治体が行うことによって、その取り組みがブーメランのようにまちづくりの中に戻って来て、創造的環境都市として誇りを持ってまちづくりを進めていくべきである。

具体的なエネルギー政策としては、グリーン電力証書の調達からもう一步進めて購入する電気のグリーン化、さらに事業所の協力を得て区内全域のグリーン電力化を進める。地球温暖化対策、自然エネルギー利用拡大をテーマにしたファンドの募集。その他に温熱環境の保証、環境に配慮した交通施策が非常に重要になる。

2 省エネルギー・自然エネルギー

省エネルギーのツールの開発だけでなく利用も入れるべき。

交通体系のところの「公共交通利用」に利便性の向上も盛り込んで欲しい。

公共交通にカーシェアリングの考え方も入れて欲しい。

計画の中に人と環境に優しい交通体系の概念を入れるべきではないか。

交通体系を省エネルギー・自然エネルギーの分類項目の中に収めて置くのではなく、交通体系という新たな分類項目としてはどうか。

環境の立場から交通のことを考えるとこうなるということをご提案すべきではないか。

環境審議会は、環境担当課から諮問を受けているのではなく、区長から諮問を受けているのだから、多少提言する環境の領域が広がっても良いのではないか。

交通は、単なる排気ガス対策といったような特定の施策だったものが、現在では、まちづくり全体においても環境においても大きなテーマになってきているので、計画の概念として入れるべきではないかと思う。

分類項目を増やすか増やさないかという議論よりも、交通の問題も大きなテーマであるということを確認できれば良いのではないか。分類項目については、あとで整理すれば良いのではないか。

熱利用や建物の断熱化の促進や、都の行っている建築物環境計画制度、エネルギー環境計画制度を区の中で生かしていく方法なども入れた方が良くと思うので、別に提案したい。

《その後提出された意見》

交通は別立てにすべきだと思う。

中野区でどのような自然エネルギーの利用が図れるか示して欲しい。

交通については、排ガス汚染 CO₂ アイドリング 荷解き 私有地の駐

車場のあり方 狭隘道路 放置自転車など様々問題があります。問題は大きく三点に分けられる。

- ・自動車・自転車運転手のマナーにより改善できる問題。解決方法は継続的な環境教育、広報活動が必要。
- ・今後の道路整備をこれまでのように渋滞緩和・通過交通のためにするのか、あるいは楽しく安心して歩ける道作りをするのかという方針の問題。
- ・公共交通網の整備。審議会では上鷺宮と中野駅を結ぶ「なかのん」の運行をしたと報告がありました。上鷺宮地域の住民の中野駅へのアクセスが改善されただけです。中野区南北を縦断する公共交通は殆どありません。区全域の多くの区民が利用できるよう、区内循環型「なかのん」の検討を。

二酸化炭素の削減量・率目標や区役所関係を中心に自然エネルギーの導入目標も明確に数値化すべきと思う。

2012年度に京都議定書の削減目標6%を達成するのはかなり厳しいと思う。

3 ごみの発生・排出抑制

「資源回収システム」のところは、単に回収するだけでなく「資源循環システム」との表現が適当だろう。

「適正なごみ・資源の排出」は「適正なごみ・資源の回収」が適当ではないか。

「公平なごみ処理・リサイクル費用の負担」は、「公平な負担」ということになる。有料化を目指しているというように受け止められるので、「負担」をとって欲しい。

ごみ処理費用は結局、住民税や事業税で誰かが負担している。

《その後提出された意見》

これまで消費者団体を中心に区民が努力してきた取り組みを損なわないよう配慮してください。

ゴミについては、「減量」すれば良いのではなく、大切な資源「有機物」として土に返すという考え方を大切にしてください。

エコクッキング講座の実施でごみの削減や省エネルギーの普及が図れます。

ごみの削減目標を数値で掲げるべきだと思う。

4 自然とアメニティ

「みどりの整備」の「行政と区民の協働」は、全体にかかわってくることなので別立てにして、「保全活動」のところで協働を言えばよいのではないか。

「身近なみどりの保全」と「地域でのみどりや水辺の保全活動」の違いが明確でない。

「みどり」という言葉の使い方がわかりにくい。

「自然とアメニティ」という言葉ももう少し具体的な言葉に変えたほうが良いと思う。

身近なみどりは減る一方なので、重要な課題として取り上げて欲しい。

一番初めに「屋上緑化・壁面緑化」が記載されているが、このような人工的なみどりよりも自然のなかのみどりを優先して欲しいので順番を変えて欲しい。

「景観や歴史・文化遺産の保全のしくみ」となっているが、「景観」には、看板や電線などもかかわってくるので、「歴史・文化遺産」と分けたほうが良いのではないか。

《その後提出された意見》

景観という文言が少ない、数値で評価しにくい、これからは景観に配慮しないまちづくりは考えにくいと思う。モデル地区の指定による景観の保全、新たな景観形成が必要だと思う。

雨水の涵養、自然な水循環システムの再生を努力目標に。

限りある貴重な生産緑地を残す仕組みを積極的につくる。そのためには農家に負担が掛からないこと。区民農園などへの利用を可能にする中野モデルが必要。

緑、公園、アメニティ、レクリエーションが健康的な市民生活に欠かせないという視点を持って欲しい。

屋上緑化・壁面緑化は都市の緑を人工的に補完するものであるという認識を持ってください。

項目等の修正案

4．快適な都市環境の創造 又は 自然と親しめる快適な都市環境の創造

- (1) 貴重な緑の保全（既存の樹木、樹林、生産緑地など）
- (2) 動植物とのふれあい空間（学校ビオトープ、親水空間、樹林地など）の確保
- (3) 質の高いみどり空間の整備（公園・街路樹・河川緑地など）
- (4) 屋上・壁面緑化などによる緑化の推進
- (5) 水資源の涵養と有効活用（雨水浸透、雨水利用、節水など）
- (6) 地域でみどりや水辺の保全活動（区と区民の協働など）
- (7) 良好な景観のための改善や保全のためのしくみづくり
- (8) 歴史・文化的遺産の保全と活用

生活廃水の環境負荷低減は、「身近な生活環境」にあるほうが適當ではないか。

5 身近な生活環境

「ポイ捨て防止や歩行喫煙防止」と「カラス被害対策」は「ごみの排出・発生抑制」と重なっているのではないか。

6 環境を考え行動する人づくり

《その後提出された意見》

環境リサイクルプラザが環境問題の情報発信、環境教育の拠点となるように「環境リサイクルプラザの機能」という文言を追加して欲しい。

「環境リサイクルプラザ」の文言が削除されたが、役割・機能が忘れられないように配慮して欲しい。

中野区は区としてISO14001を認証取得し、率先して環境負荷の低減、地球

温暖化防止に取り組むということをもっと鮮明に出すべきだと思う。

括弧内に（環境マネジメントシステムの普及）とあるがわかりにくいので、中小企業者を対象として「エコアクション21自治体イニシアティブプログラム」を積極的に推進・支援していくと打ち出してはどうか。

7 計画の実効性を高めるしくみ

環境行動を促すための経済的、規制的なしくみづくりがいるのではないか。

まちづくりに関しては、計画ができてからアセスメントを行うのではなく、計画を作成する段階からアセスメントを行う「戦略的環境アセスメント」を中野区でも取り入れて欲しい。

「まちづくり・再開発における計画段階からの環境配慮のしくみ」はこれが一つの分類項目になるぐらいの内容ではないか。一つの項目にすることが難しいのなら、もっと強調する書き方をして欲しい。

計画を実効性のあるものにすることが一番大切だと思うので、数値目標の設定や計画の管理と評価のしくみをこの審議会を通じてアピールすべきだと思う。

《その後提出された意見》

是非「まちづくり」という独立した章をつくってください。「土地利用のあり方」は環境問題の中でも特に重要な問題です。土地の高度利用は環境負荷を高める。土地の高度利用は有効利用と同意語ではないことを確認してください。

中野区のまちづくりは開発志向が強いので、計画に対しては環境保全の立場からしっかりとした検証と代替案の提示が必要です。大規模開発には計画策定前の環境アセスメントを早急に用意することを望みます。

人口増加は区内のCO₂排出量の増加を意味します。今後の開発によって数千人規模の昼夜人口増加が予想されますがCO₂の削減はどのように担保できるか示してください。

狭隘道路の拡幅により生活道路に通過交通が増加する可能性が高いです。最近、通学通園時の交通事故が多いです。このことから生活道路が幹線道路渋滞時の抜け道にならないような対策が必要です。東京都全体の交通量が飽和状態ですから、道路は整備をしても渋滞緩和は望めないと思います。公共交通の充実をはかり、足代わりのな自家用車利用をへらす工夫が必要と思います。

中野区には歩いて暮らせる「ヒューマンスケール」が残っています。現場で最小限の修復を重ねるような環境改善を大切にしたいまちづくりを望みます。

その他

区民にわかりやすい内容にして欲しい。さらに今までこれだけのことをして来ましたという評価も載せないと、今まで何もしてこなかったと思われる懸念がある。

これまでの経過を押さえ、何が不足していて何ができたかということ整理しなくてはならないと思う。

《その後提出された意見》

環境は様々な分野の問題を含むので、すべての分野の計画と環境基本計画が整合するようにして欲しい。

人間の活動により悪化した自然環境は、人々が最低限の約束事を守り、お互いを尊重し、連帯して自ら自然環境をより良いものにしていくという自治の精神を育てていくことが大切であると思う。そのような精神を中野で育む環境教育や学習などの施策を環境基本計画では区民に提案して欲しい。

資料6 『「中間のまとめ」について』に関する意見

環境像 「生活にやさしく、健康で住み良い住環境を、次世代に継承し伝える。」

「緑あふれ、住み良い住環境を、次世代に継承し伝える。」

基本目標 「区民・商店街・事業者が力を合わせて環境を守り育てる。」